

今月の表紙「ドラセナ」

「植物の葉」をモチーフに、今号からデザインを一新してお届けします。今回は、開運や金運を招く「幸福の木」として知られる植物「ドラセナ」。種類も多く個性のあることから、世界各国で親しまれている観葉植物です。

Contents

- 01 巻頭言
芦田昭充
「新たな魔境 アデン湾 -ソマリアの海賊-」

- 02 特集
企業経営委員会
3つのパネル・ディスカッション
「リーダー育成」
「グローバル化とダイバーシティ」
「M&A」

- 12 リレートーク
尾原蓉子「実学」に挑戦した十余年
——教育とは人の心に火をつけること

- 13 委員長インタビュー
経済外交委員会 廣瀬 博
新時代のものづくり基盤委員会 野間口 有

- 15 経済同友最前線
経済外交委員会提言
「真に尊敬され信頼される国家としての経済外交」
新時代のものづくり基盤委員会提言
「世界に貢献するものづくりを目指して」ほか

- 25 レポート
21世紀臨調「政権選択選挙準備フォーラム」
桜井代表幹事が公開討論に登壇

- 27 同友会スケッチ
2009年3月の記録と5月の予定

- 29 新入会員紹介
2009年3月23日現在の入退会者

- 30 私の思い出写真館
村上仁志「伊勢神宮に思う」



副代表幹事
金融・資本市場委員会 委員長
芦田 昭充
商船三井 取締役社長

新たな魔境 アデン湾
—ソマリアの海賊—

アデン湾。「アフリカの角」と呼ばれるソマリアと、中東のイエメンなどに囲まれた海域だ。スエズ運河へつながるため、通過する船舶が年間2万隻を数える海の要衝。2008年にここで起きた海賊事件は92件*に上り（前年の7倍強）、世界の海賊被害数の3割を超えた。「新たな魔境」の発生だ。その影は広がり、各国海運会社の運航船舶が危険にさらされながら付近を航行している。

襲撃用高速ボート数隻を積んだ母船。自動小銃にロケットランチャー、GPS。これらを駆使して商船などへ乗り込み、人質を拘束して高額の身代金を要求する蛮行を海賊たちが繰り返している。200人以上もの人質が解放されていない。もはや「海賊ビジネス」。弊社の自動車専用船も3月末、ソマリア東方沖で砲撃され船体に被害を受けた。

「アデン湾航行を止めたら」と思われるかもしれない。しかしアデン湾～スエズ運河を通らねば、南アフリカの喜望峰まわりしかない。航行距離・日数が大幅に伸びて海上輸送という日本のライフラインの一つが断ち切られる。海運会社だけの問題でない。世界の治安と経済にかかわる重要課題ゆえ、EU諸国はじめ各国が艦艇を派遣してアデン湾の安全航行確保を果たそうとしている。中東地域では「欧州に任せるべし」との意見もあると聞かすが、自国の生命線の危機なのだ。日本も拱手傍観ではいけない。

海運業界も日本船主協会を通じて「日本の艦艇の現地派遣」をお願いした結果、3月13日に海上警備行動が発令。海上自衛隊護衛艦2隻が現地へ向かい、3月末から活動が開始された。誠にありがたい限りだ。護衛艦の安全と乗組員の皆さんの人命を第一に、海域の安全回復へ大いに貢献いただきたい。

この海域で海賊が急増した原因も見逃してはなるまい。ソマリアでは「無政府状態」ゆえに治安が麻のごとく乱れ、現地住民が現金獲得手段として海賊をビジネス化した。この点を忘れず国際社会が同国の治安回復に努めないと、海上行動も対症療法にすぎなくなる。同海域の海賊は「人質を身代金確保の大事な手段として、手荒なことをしない」とみられてきた。しかし昨年だけでも、人質4人が殺害され14人が行方不明に……。対症療法と根本治療を、複合的に施すことが求められよう。

「新たな魔境 アデン湾」。各国の船が安心してこの海域を航行できる日が一日も早く訪れることを心から念じている。国際社会が一致協力し、マラッカ海峡の海賊を押さえ込んだように。

*ソマリア東岸を入れると111件